

溝小だよ！

<https://mizonobe-kahoku.edumap.jp/>

河北町立溝延小学校

学校通信 No.347

2022. 7. 30

『お試しの夏』『成長の夏』

1学期70日間の教育活動を終え、7月22日に終業式を行いました。全校生が集まること、校歌を歌えること、仲間の発表を直に聞けること等、普通のことができる喜びを感じた時間でした。3人の代表児童が、ねばり強く学習できたこと、仲間と考えを交流することがとても楽しかったこと、苦手なことに挑戦し少しずつ自信がついてきたこと等を発表しました。全校生一人一人が自分の目標に向かって努力し、成長した1学期でした。

8月18日までの夏休みに入りました。コロナ感染拡大防止に努めながらも、夏休みにしかできないことに上手に時間を使ってほしいと伝えました。自分がやりたいこと、うまくなりたいことのためにいろいろ試してみる、そして、また成長した喜びを感じられる、そんな夏休みになることを心から願っています。

試行錯誤の末に出した かけがえのない自分の答え

第2回授業研究会 1年生活科 「なつとなかよし ～たのしいあそびがいっぱい～」

本単元は、シャボン玉遊びや水遊び等を通して、夏の楽しさや季節感を味わう学習です。担任 大江教諭が留意したのは、『子ども達の考えやアイデア、やってみたいという意欲を大事にして、実際にいろいろ試してみること』でした。「シャボン玉に色を付けるには絵の具でやればいいよ。」「四角い形の物でやれば、きっと四角いシャボン玉ができるぞ。」と、前の時間にあれこれ考えて準備した道具で、今日はどんなシャボン玉ができるのか、それはそれはわくわくした気持ちで本時に向かっていましたし、実際にやってみて現象を目の当たりにして、初めて子どもは納得すると考えていたからです。実際、ストローを絵の具で溶いたシャボン玉液につけて吹いてみると、不思議、不思議、たしかに緑色やピンク色のシャボン玉が次々と出てきました。また、四角形や三角形の道具を用いても、できるのはどれも丸ばかり。でも、子ども達は納得顔です。「どれでやっても、丸ばかりだな。」

生活経験をもとにして、自分の考えや意図をもって学びに向かい、試行錯誤を繰り返しながら、確かめてみる。それらの過程によって出した答えは、それが正解かどうかということよりも、「やりたい」という意欲と、「やった」という体験に基づいて出した、自分にとってかけがえのないものだと考えています。今回の授業を通して、改めて1年生の子ども達の姿が教えてくれたことを財産にして、これからも授業改善に努めていきたいと思えます。



本校ホームページへは
こちらからどうぞ



学校教育目標 : ふるさとだいすき かしく つよく やさしく

(校長 小林 聡)